

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三共リース備品名古屋	階数	地下0階地上3階
建設地		構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	10人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年2月 予定	評価の実施日	2025年4月30日
敷地面積	3,480 m ²	作成者	阿部 晃久
建築面積	1,931 m ²	確認日	2025年4月30日
延床面積	5,311 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社 阿部晃久



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: #DIV/0!

③上記+②以外の: #DIV/0!

④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
三共リース備品名古屋

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質												2.8
Q1 室内環境												-
1 音環境												-
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	3.0	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	3.0	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2 温熱環境												-
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3 光・視環境												-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2 方位別開口				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
4 空気質環境												-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能												3.4
1 機能性												-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
3 バリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性												2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	2.9	0.52	-	-	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.4	4.0	0.48	-	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.2	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	4.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			独自③		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-				3.1
LR1 エネルギー					0.40				4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.8	3.0	5.0	0.50		5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	-	-		-
3 設備システムの高効率化				BEI=0.61	3.0	-	-		-
4 効率的運用					0.5	3.0	0.50		3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		
集合住宅の評価					-	-	-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			2.7
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63		2.5
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	2.7	0.22		2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	2.6	0.68		
1 消火剤					-	2.0	0.33		
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.33		
3 冷媒					3.0	3.0	0.33		
LR3 敷地外環境					-	0.30			2.5
1 地球温暖化への配慮			①		-	-	-		-
2 地域環境への配慮					0.5	2.4	0.50		2.4
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25		
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		
3 交通負荷抑制			独自			4.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制						1.0	0.25		
3 周辺環境への配慮					0.5	2.7	0.50		2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		
2 振動			独自		-	-	-		
3 悪臭					-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-		
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	1.0	0.70		
2 透光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				N. A	
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00		
② 資源の有効活用				3.1	
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19		
③ 敷地内の緑化				2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17		外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-		なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-		なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 三共リース備品名古屋

計画上の配慮事項	
総合	内装材は環境に配慮し、耐用年数に優れたものを使用した。また外皮性能を高め、高効率機器を採用することにより省エネルギー性能を向上させた設計とした。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	内装材は耐用年数の長いものを使用。
Q3 室外環境(敷地内)	空地率=53.4%
LR1 エネルギー	LED照明設備の設置
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能
LR3 敷地外環境	適切な位置の緑地配置
その他	特になし。